

第2回小金井研究交流セミナー 開催案内

下記の要領にて、情報科学部・理工学部・生命科学部の教員・研究者による研究交流セミナーを開催致します。終了後に小規模ではありますが懇親会も企画しておりますので、ご参加のほど宜しくお願い致します。

記

日時：2019年6月21日(金) 17:00～

会場：小金井キャンパス西館3階 情報科学部 アクティブラーニングラボ

主催：小金井研究交流セミナー世話人会

- | | |
|-------------|---|
| 17:00 | 開会挨拶 |
| 17:00-17:50 | 「細胞や組織の再構成に挑む」※
金子 智行 先生（生命機能学科） |
| 17:50-18:40 | 「ラドン変換を応用した表面微細凹凸解析の研究」と
「牡蠣の殻を開けずに中の身の大きさを予測する研究」※
吉田 一朗 先生（機械工学科） |
| 18:40 | 閉会挨拶 |
| 19:00-20:00 | 懇親会（会費制） |



※裏面にご発表概要があります

懇親会のご案内

終了後、管理棟3階ジェーズキッチンにて懇親会を行います。会費制となっており、人数把握のため、ご参加頂ける皆様におかれましては、下記を点線部分で切り取って頂き、各学部執行部もしくは学科事務室に6月10日までに提出ください。

懇親会に申込みます

お名前： _____

会費：2000円（当日懇親会会場にて申し受けます）

研究交流セミナー ご発表概要

「細胞や組織の再構成に挑む」

金子 智行 先生
生命科学部・生命機能学科

生命とは何か？という疑問に答えるために様々な研究が行われています。それらの研究は分解して理解する分析的アプローチがほとんどですが、この方法では生命の必要条件しかわかりません。そこで我々は構成的アプローチを用いて生命の十分条件を探る研究を行っています。その研究の一端である細胞を再構成するための人工脂質膜小胞（リポソーム）の研究や心臓を再構成するための細胞配置技術について紹介します。

「ラドン変換を応用した表面微細凹凸解析の研究」と 「牡蠣の殻を開けずに中の身の大きさを予測する研究」

吉田 一朗 先生
理工学部・機械工学科

弊研究室で行っている「プラトー構造表面の評価方法の開発」と「牡蠣の殻を開けずに中の身の大きさを予測する研究」についてご紹介致します。

近年のエンジンボア内面の表面凹凸は、環境負荷低減のためにプラトー構造化が進んでいます。しかし、JIS/ISO 規格や先行研究においても適した解析方法がないため、ラドン変換を応用した表面微細凹凸解析法を開発し、2018年度設計工学会論文賞を受賞いたしました。

牡蠣の名産地の漁協では、「殻は大きいのに開けてみたら中身は小さい牡蠣」が選別できないという課題を抱えています。この課題を解決すべく、幾何学量計測や様々な計測原理を応用して牡蠣の中の身の大きさを予測できる手法の研究を行なっています。